

平成18年度 第2回福岡空港調査連絡調整会議  
議事録

1 日 時 平成18年12月27日(水) 14:00~15:30

2 場 所 ホテルレガロ福岡 3階 レガロホール

3 出席者

(1) 福岡空港調査連絡調整会議委員

国土交通省九州地方整備局長	小原 恒平
(代理出席 九州地方整備局副局長	鈴木 克宗)
国土交通省大阪航空局長	武田 洋樹
福岡県副知事	武居 丈二
福岡市副市長	中元 弘利

(2) 幹事

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	鈴木 勝
国土交通省大阪航空局飛行場部長	八鍬 隆
(代理出席 大阪航空局飛行場部次長	梅野 修一)
福岡県企画振興部理事兼空港対策局長	西村 典明
福岡市総務企画局理事	岩瀬 信一郎

(3) 国土交通省航空局飛行場部からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課長	森川 雅行
------------------	-------

4 議事

(1) 開会

事務局：

では、定刻となりましたので、ただいまから平成18年度第2回福岡空港調査連絡調整会議を開会させていただきます。

前回開催しました福岡空港調査連絡調整会議以降、異動等によりまして、メンバーの方々もかわっておられますので、改めてご紹介をさせていただきます。国土交通省九州地方整備局、鈴木副局長でいらっしゃいます。

鈴木副局長：

よろしくお願ひいたします。

事務局：

同じく、国土交通省大阪航空局、武田局長でいらっしゃいます。

武田局長：

武田です。よろしくお願いいたします。

事務局：

福岡県、武居副知事でいらっしゃいます。

武居副知事：

よろしくお願いいたします。

事務局：

福岡市、中元副市長でいらっしゃいます。

中元副市長：

どうぞよろしく。

事務局：

以上、4名の本会議メンバー並びに、本日は国土交通省航空局飛行場部計画課の森川課長にご出席いただいております。

森川課長：

よろしくお願いいたします。

事務局：

次に、本日の配付資料を確認させていただきます。お手元にお配りしておりますけれども、上から、配付資料一覧、続きまして配席図、出席者名簿、そして4枚をホッチキスでとめておりますが、上から、本日の会議次第、それから資料1ということで、「福岡空港の総合的な調査に係るP I (ステップ2) について(案)」、続きまして、資料2といたしまして、「平成19年度総合的な調査の概要(案)」、それから、次に別添としまして、別添1「福岡空港の総合的な調査に係るP I (ステップ2) 実施報告書」。この別添1につきましては、参考資料としまして、ピンクの大きなファイルをお配りしているところでございます。続きまして、別添2ということで、「福岡空港の総合的な調査に係るP I (ステップ2) の実施結果に関する評価等について」という文書でございます。資料は以上でございます。揃っておりますでしょうか。

ここで、マスコミの皆様へお願いでございます。議事の進行の関係上、テレビ、カメラ等の撮影につきましては、冒頭の事務局説明までとさせていただきますので、よろしくご協力をお願いいたします。

それでは、九州地方整備局の鈴木副局長に議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

## ( 2 ) 議事

鈴木副局長：

それでは、議事進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、去る 12 月 8 日に開催されました福岡空港調査 P I 有識者委員会におきまして、P I ステップ 2 活動の評価をしていただいたことを踏まえまして、当会議といたしましては、この P I ステップ 2 を終了するかどうかの判断をすることになっております。また、平成 19 年度に行う調査の内容につきまして審議をすることになっております。

それでは、次第に沿って進めたいと思いますので、まず、議事 1 の「福岡空港の総合的な調査に係る P I (ステップ 2) について(案)」の説明をお願いいたします。

### 議事 1 福岡空港の総合的な調査に係る P I (ステップ 2) について(案)

幹事：

議事 1 の内容について、まず資料をご説明していきたいと思います。

資料 1 の一枚紙をご覧いただきたいと思います。今、副局長からお話ございましたけれども、7 月に P I 活動を始めまして、11 月に意見集約をし、その後いろいろな手続を経まして、先ほどおっしゃったように、福岡空港調査 P I 有識者委員会に実施報告書を提出してご議論をいただいております。それで、今回いろいろな手続、段取りを経ましたので、最終的に終了するかどうかということでございます。

福岡空港調査 P I 有識者委員会の評価につきましては、後ほどまたご説明をいたしますけれども、最終的には、目標を達成したという評価をいただいております。それを受けて、今回福岡空港調査連絡調整会議でどうするかということでございます。資料 1 は、そのような内容を書いてございまして、具体的には別添 1 という冊子がございますけれども、実施の内容及びその評価等について、私どもでまとめたものでございます。これで概略をご説明して、福岡空港調査 P I 有識者委員会の報告ということをご説明したいと思っております。

先ほどご説明しましたように、この実施報告書は、本編の部分と、活動内容を示しました別冊のピンクのファイルがございます。それで、実施報告書そのものは、我々幹事が 12 月の上旬に取りまとめをしまして福岡空港調査 P I 有識者委員会に報告をしております。内容をご説明させていただきたいと思います。

まず、報告書を 1 枚開いていただきますと、「はじめに」ということと「目次」というのがございます。報告書自体に書きました内容は大きく三つございまして、一つは、P I の実際の活動の内容を書いてございます。それから、2 番目に、P I 活動によりまして、寄せられました県民の方々のご意見をまとめております。そして、3 番目に、これらの P I 活動を我々なりに分析し、評価をしたものを載せております。最終的には、我々の結論としましては、県民の皆さん方には十分情報提供できたと。それで、十分ご認識をいただいたということで、目標を達成したのではないかといった結論をまとめたものでございます。

幾つかポイントをご説明していきたいと思いますが、まず、P I の活動内容を 1 ページから、3 ページまで載せております。これは、P I ステップ 1 でも同様の活動をしました

けれども、まず、周知広報活動、それから情報提供の意見収集活動といったものを行っております。スタートするときに、福岡空港調査連絡調整会議のほうで、丁寧な情報提供や意見収集に努めるというお話を受けまして、我々としては、例えばレポートの配布部数を前回よりは1万部増やしたりとか、あるいは、シンポジウムとかパネル展示でありますとか、そういった新しいイベントを追加したりといったことで、より丁寧な作業をしております。最終的には、右側2ページ以下に出ていますイベント物等に、約1万人の方に参加をいただきました。そして、ホームページへのアクセスも1万件ほどいただいているという状況でございます。

次に、4ページから寄せられたご意見について取りまとめをしております、これが22ページまで続いております。4ページ、5ページあたりは、アンケート調査をしております、どのような方々がご意見を寄せられたかということを示したもので、属性を整理したものでございます。幅広い層からご意見をちょうだいしているということがわかると思っております。

それから、6ページからは、レポートの内容等についてのアンケートをしております、6ページの上などは、レポートはわかりやすかったかどうかということで、7割の方がまあわかりやすかったと回答をいただいております。それから、1枚めくっていただきまして、7ページに参りますと、上二つが、必要な情報がそもそも提供されているかというご質問をしましたところ、福岡空港の役割とか需要予測等につきまして、おおむね半数以上の方が、必要な情報が提供されているというような回答をいただいております。

内容的には、需要予測などかなり難しい専門的なものもございましたけれども、必要な情報については提供ができて十分ご意見がちょうだいできたのかなと思っております。それから、右側の8ページ以降でございますけれども、これは個別の記述意見について類型化して整理をしたものでございます。詳細説明は省略させていただきますけれども、全体の件数でいいますと、1,352人の方から3,921件のさまざまなご意見をちょうだいしております。

それから、ずっとめくっていただきまして、23ページ以降が、今回のPIステップ2の活動の分析ということで、そもそも当初の目的に沿って適正に行ったかどうかを我々に自己分析をしたものでございます。ポイントとしては、一つはPI活動が実施計画に沿って適正に行われたかということ、2番目には、県民の方々に対して十分な情報提供をし、幅広い意見収集をするという当初の目標が達成できたかどうかということ、PIの活動状況でありますとか、先ほどご説明しましたアンケートの内容等で分析して結論を出しております。

細かい分析の中身は省略をいたしまして、最後のページ、32ページにまとめというところで書いておりますけれども、最終的にはPI活動そのものについては適切に実施をし、当初の目標は達成したと私どもは考えてまとめたところでございます。

以上が実施報告書の中身でございます、これを取りまとめまして、チェック機関であります福岡空港調査PI有識者委員会に送りまして、先日ご説明をしてお伺いをいたしましたところでございます。

その結果、別添2のとおりご回答をいただいております。別添2、一番上が評価についての回答でございます、2枚目以降随分いろいろ資料をつけておりますけれども、これ

がその時々細かいご意見なりアドバイスをまとめたものでございます。一番上の、評価についてのペーパーでございますけれども、最終的な結論といたしましては、記の1、評価というところをご覧くださいますと、今回のP I活動については適切であると。それから、今回のP Iの目標は達成されたという評価をいただいております。そういった意味では、我々の実施報告書でしました判断と同じだということだと思っております。

それから、2の助言のところでございますけれども、評価とは別に、今後の活動についての留意事項でありますとか、進め方についての助言も、そこに4点ほどいただいて整理をしていただいております。それぞれご説明しますと、一つ目が、これは主としてP Iレポートについてのお話でございますが、情報提供についてわかりにくいとか十分でないという方が少しでも減るように、今後も工夫をして努力をしていきたいと思いますということが1点でございます。

それから、2点目が、P Iの手法について、説明会等の手法についてでありますけれども、今までP Iステップ1、2と進んできたわけですが、そのイベントの経験を検証しながら、創意工夫をしていきたいと思いますということが2点目でございます。

3点目でございますけれども、懇談会等において、一方的な説明だけではなくて、いろいろな意見が双方向にコミュニケーションが図られるような方法を工夫するということでありまして、例えば、テーマを絞って議論をするという手法なども取り入れて、双方向で意見を闘わせるような場を設けるべきではないかというご意見でございました。

最後に、特に今回需要予測という専門的なものがございましたけれども、そういった情報については、大変関心の高い情報でありますので、質問等に対しても、丁寧に、引き続き必要であれば説明をしていくといったことを4点目にご指摘をいただいております。最終的な評価が適切であるということでございますので、今回のP Iステップ2については、最終的に終了するのが適当であろうと考えますけれども、助言も4点ほどいただいておりますので、これらの助言につきましては、次回のP Iステップ3の準備の際に、それぞれの項目について検証して、よりよいものについて検討していきたいと思っております。

いずれにしましても、今回、7月から始めましたP Iステップ2については、福岡空港調査P I有識者委員会からも了解をいただいておりますので、事務局としましては、最終的には、これをもちまして終了していきたいと思っております。

これらの結論を踏まえて、ご審議をいただければと思っております。資料の説明は以上でございます。

鈴木副局長：

それでは、中身の議論に入りたいと思いますが、ただいまの説明につきまして、ご意見はありますか。

森川課長：

内容については妥当だと思いますけれども、一つ教えていただきたいのが、P Iのステップ2を実施計画に基づいて実施したというお話でございますけれども、さまざまな周知広報活動や情報提供をされています。これは最初、始まる前の時点というか、要するに実施計画に基づいてすべて行われているものなのか、やっているうちに、うちの地区でもと

か、おれのところでもこういう説明会なり情報提供が欲しいというのがあって、それも織り込んで実施計画をつくってあるのかどうか承知しておりませんが、そういうように、勢いがつくという言葉がいいかは別にして、説明をしている最中にいろいろ説明の輪というか、そういうのが広がっていったのか、その辺のところがあれば、教えていただきたいなと思います。

幹事：

実施計画作成の段階でいろいろと丁寧にやっていこうということで、精緻な実施計画をつくりました。現実には、今課長がおっしゃったように、いろいろなものを追加しているのが現状でございます。それは期間も延ばしましたし、イベントもいろいろな場所を追加してやっています。

それで、実施報告書の27、28、29ページをご覧くださいなんですけれども、そこに、実は「PI（ステップ2）実施計画と実施内容の比較」ということで、横長になりますが、一番右の欄に実施計画の比較という欄を設けておりまして、大体計画どおりということですが、中には場所を追加したりとか、回数を追加したりとか、そういったものをやっております。これは、やっているうちに、今おっしゃったように、必要だと我々も考えたもの、あるいはいろいろな方面からやってくれないかというご要望もございましたので、そういったものについては追加をして実施をしております。

鈴木副局長：

ほかにもございますか。

それでは、地元の自治体のほうから、各々お願いしたいと思います。

武居副知事：

PIステップ1でもイベントとかいろいろやりましたよね、見学会とか。あれ、継続して参加している人とか、今回は、そういうのは何かとっているんですかね。

幹事：

正確に把握しているわけではありませんけれども、説明会などでご意見をおっしゃる方は1回目にご意見を言われた方も多かったというような記憶がございます。あと、カテゴリー別に航空業界とかいろいろな周辺住民の方とか、そういうカテゴリーで分けた懇談会というのをやっていますが、それについては継続的にPIステップ1のときに出席いただいた団体とか、方々にもご説明をし、ご意見をちょうだいしていますので、引き続きやっていくという状況だと思います。

鈴木副局長：

福岡市のほうから何かありますか。

中元副市長：

情報提供と意見収集というのが、どうも福岡市を中心にずっと固まってきたような感じ

もするんですよ。都市圏あたりも少しは行っていますけれども、あるいは北九州もちょっとあるんですが、やっぱり福岡市中心にならざるを得ないんでしょうかね。例えば、懇談会とかパネルの展示とか。

幹事：

基本的には福岡市でやっておりまして、さらに県内全体を5カ所に分けまして、それぞれで必ず説明会、ないしはオープンハウスといった、繁華街などにパネルを展示して、周知といいますか、情報提供するという作業は、必ず県内5カ所でやっております。北九州、筑豊、福岡市、福岡市周辺、それから県南、そういったところでは必ずそういう作業をやっております。また、今回新たに佐賀県も圏域であるということで、佐賀県でもオープンハウスをやっております。そういったことで、できるだけ広範囲に、1回目よりさらに広範囲にやっということをやっております。

それから、福岡市内のPI活動を深度化するという意味では、福岡市内でも、単なる説明会、懇談会だけではなくて、区役所でもパネル展示をするということで、9月に追加してやっています。

鈴木副局長：

大阪航空局長のほうから何かありますか。

武田局長：

この報告書に出ていますように、情報提供も随分見直されたなと認識しておりますし、それから、住民の方のご意見もかなり細かく集約できているんじゃないかなという感じを持っております。

鈴木副局長：

ほかにございますか。

また次の議事に移った後でも、何かあれば言っていただきたいと思います。それでは、PIステップ2を終了すると判断をしたいと思っておりますけれども、いかがでございましょう。

(「異議なし」の声あり)

鈴木副局長：

当会議として、PIステップ2を終了することといたします。

それでは、次の議事に移りたいと思っております。

議事2の、「平成19年度総合的な調査の概要(案)」につきまして、今年度の調査内容、それからPIの今回の実施状況を踏まえまして、どういうことをするかということについての説明をお願いしたいと思います。

## 議事 2 平成19年度 総合的な調査の概要(案)について

幹事：

九州地方整備局でございます。

資料2を用意しておりますので、ご覧いただきたいと思います。資料2の一枚紙と、それから、表の2枚からなっております。この福岡空港調査連絡調整会議で行う19年度の調査の概要をお示ししております。

まず、1ページ目でございますが、これまでPIレポートステップ2でもお示ししておりました、将来の航空需要の予測を踏まえて、今後検討すべきことを1点整理しております。大きく三つの柱から成り立っております。一つは、福岡空港と他の近隣空港との連携について検討を進めていくものでございます。これにつきましては、国と、地域と書いてございますが、福岡県、福岡市と一緒に連携の方策の検討をさらに進めてまいりたいと思っております。

それから、こういった連携というソフトの政策のほかに、いわゆるハードな政策になりますが、現空港における滑走路増設の検討を進めていきたいと考えております。これは、今の福岡空港に滑走路をどうしたら増設できるかという極めて物理的な空港計画の検討とともに、やはりそういった物理的な検討のほかに、それに伴う影響、あるいは効果というものがございますので、これにつきましては、国と県、市、共同で検討を進めてまいりたいと思っております。

それから、もう一つ、新空港の検討もあわせて行いたいと考えております。これは、やはり空港の計画要件、あるいは空港の立地の考え方、これを整理いたしまして、検討をするものでございます。ただ、これにつきましては、現空港をどうするかと、現空港の用地をどうするかということも一つ、議論していかなければなりませんので、同様に、国と県、市、分担しながらこういったものを取りまとめていきたいと考えております。

この三つを取りまとめる最後の作業が残っておりますが、上の三つの案を、やはりそれぞれ比較評価しようということでございますが、まず、これにつきましては、こういった観点からこの三つの案を評価すべきであるかというのをきっちり固めていきたいと思っております。その後、それぞれの対応案の評価と比較というものを検討していくことが必要と考えております。また、本日、PIステップ2終了という言葉いただきましたけれども、次のステップ3以降のPIをあわせて並行的に実施していきたいと考えております。

2ページ目の表は、今口頭で申し上げたこと、あるいは1ページ目の調査項目事項を同じように国と地域の分担ということで整理しているものでございます。薄い水色が既にやっているところ、濃い水色が、これから行う作業ということでございますので、細かい説明は省略させていただきます。

以上でございます。

鈴木副局長：

ただいまの説明につきまして、何かありますか。非常に簡単な説明なので、多分内容についての疑義もあると思っておりますので、議論の中で深めていきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。



武居副知事：

国と地域がどういう役割分担なり連携で調査をやっていくのかというのはこれからポイントになってくると思うんですけれども、必ずしも、それぞれ役割分担でできるところもあれば、相互に関連する部分も何か出てくるような気がしますので、すばっと割り切れない部分もあるのかなという感じもしております。現空港なり新空港の問題ですね。例えば、新空港であれば、現空港用地の開発計画の検討というのと、ひょっとしたら新空港の検討というのが、相互に開発に伴うもろもろの予算的な問題とかが関連してくるのかもしれないんですけれども、このところは、また、進める中で十分に連携をとりながら、ぜひお願いしたいなと思っております。近隣空港との連携ということであれば、現在の空港が中心になりますので、国のほうでもいろいろ、あるいは私どももそうなるんですけれども、特に2番目と3番目については、またそこのところよろしくお願いしたいと思います。

幹事：

確かに、作業は今までもいい意味できれいに分担をしないで、それぞれ連携をしてやっておりますので、これからもチームワークでやっていきたいと思っています。

鈴木副局長：

福岡市さんはいかがですか。

中元副市長：

新空港の検討の中で、問題は現空港用地の跡地をどうするかという問題が出てきますが、福岡市としても取り組む課題としては非常に大きいと思っています。今後、それぞれ国と地域で、役割分担をしながら調査を進めていければいいと思っています。

幹事：

おっしゃるとおり、確か、現空港約350ヘクタールございまして、貴重な財産でございますので、あわせて、どうしていくのかということについて、ご協力よろしくお願いしたいと思います。

鈴木副局長：

もともと自治体にとっては、航空需要にどう対応するかということ以上に、地域経営みたいな観点から検討しなきゃいけないとかいうことでありますので。今度は航空行政のほうということで、少しお話を伺いたしたいと思いますけども。

武田局長：

国の役割と地域の役割という話が出ましたけれども、航空局、つい昨年、中部国際空港が開港いたしました。あそこは旧名古屋空港、県営空港ということで、県のほうに引き取っていただいたと。こういう事例もありますし、今年3月に新北九州空港が開港いたしましたけれども、旧空港、実は用地の売却について、航空局としては早く売りたいが、なかなかうまく処分ができていないという状況がございます。そういう意味では、私ども、

航空局としてのいろいろな過去の経験もございますので、このあたりは国だ、地域だということじゃなくて、両方が連携しながら、お互いのノウハウを持ち寄って検討していく必要があるのかなと感じております。

それから、近隣空港との連携ということで、新北九州空港、それから佐賀の話があるんですが、昨年時点では、まだ新北九州は開港しておりませんでしたけれども、この3月に開港いたしました。私ども航空局が予想しておいた需要よりは若干下がっておりますけれども、旧空港に比較すれば、3倍か4倍ぐらいお客様が増えております。そういう意味では、この8月から24時間化にもなりましたし、深夜の貨物便も出ておりますし、佐賀のほうもそうですけれども、どういう連携ができるのかなというところで、このあたりも地方自治体と連絡を密にしながら検討を加えたいなと考えております。

鈴木副局長：

森川課長はどうか。

森川課長：

調査内容をお聞きしていると、いわゆる新しい空港なり、あるいは今の空港の活用なり、あるいは連携なりということで。いわゆるこういうP Iがなくても、従来であればこういうペースで検討してきたわけでありまして。今回初めてやはりP Iというプロセスをかませていろいろな調査をやっているというのが特徴的でないかなと思っております。那覇も同じような状況で、今度P Iステップ3に入ろうとしています。そういった観点から考えて、より専門的、より具体的になっていく中で、P Iステップ1、2というステップを踏んできて、今度は新たにP Iステップ3として、もう少しやり方を変えるであるとか、こういう方面をやっていききたいとか、何か地域としてのお考えがあるのかなというのを最初にお聞きをしたいと思っております。

幹事：

先ほどご説明しましたように、福岡空港調査P I有識者委員会からもいろいろご指摘をいただいておりますので、これから次のP Iステップ3の準備に入る計画をつくるときに中身を詰めていかなければいけないなどは思っておりますが、我々がP Iステップ2までやった感じで言いますと、一つに、今回もイベントに1万人ぐらい参加をいただいております。ホームページでも1万件ぐらいアクセスがあったんですけども、ご意見をいただいた方は、先ほども言いましたように、1,300 幾ら、これは相当な数であるんですが、1万件の中で1,300 ということで、まだまだ情報を提供して、中身はご理解するなり認識をいただいているけれども、意見を出すところまでには至らなかった。これはいろいろ要因があって、需要予測という専門的なものですから、なかなか簡単にはいかないことあると思っておりますが、まだご意見を出されていない方々に出していただくということが必要なのではないかなと思っております。

P Iステップ3は、具体的にどういう案で対応をしていくかという対応案になりますので、それぞれいろいろなご意見をお持ちだと思いますので、そういったものを出していく手法なりやり方を考えていききたいと思っております。

それから、2番目には、抽象的にはなりますけれども、具体的な案になると専門的なものが増えてきますので、かなり難しく、需要予測もかなり難しい内容だったんですが、できるだけわかりやすくという努力を国のほうにさせていただきましてけれども、対応策というPIステップ3になると、またさらに難しい内容になってくると思うので、できるだけわかりやすい情報を提供していきたいなと思っています。

それから、最後にはできるだけ多くの方に参加いただけるようなオープンハウスとか、繁華街の中でいろいろなイベントをやるとか、そういったものも工夫をしていきたいなと思っています。

森川課長：

冒頭の質問に戻るんですが、やはり、最初の計画に、さらに巻き込んでいろいろ膨らませていくといいですか、勢いをつけていろいろなご意見が伺えるような、まさしくインボルブメントするような、やりながら自己増殖していくような考え方というか、取り組みをされたいのかと思っています。

それともう一点、PIのまとめ方なんですけど、PIステップ2というのは、確かにこういう項目についてご意見がありましたという整理をされていますが、今後、その方向性の検討をしていく際に、いろいろなご意見がありましたという整理だけでいいのか、あるいは何々に関する意見というのは、そういうふうにしたほうがいいのかという意見もあれば、やらないほうがいいのかという意見もあるし、中立の意見もあって、今のPIステップ2のまとめ方だと、それを全部何々に関するご意見としてまとめているわけでありまして。今後の方向性の議論をする際に、もう少し、どういう傾向のご意見なのか。パブリック・インボルブメントというのは、広報周知して理解を得るというのも重要ですし、その理解を得た上で、皆さんがどういうことを思われているのかというのを真に探っていくという要素があると思います。特にPIステップ3、4となると、前者は当然のことながら、やはりどういう方向をみんなが考えているのかというのを適当に判断していく必要があると思うので、その2段階の中で、いかにうまくいいですか、適切にそういうものを整理がされていくのかという、それは福岡空港調査PI有識者委員会等のご指導も得なければいけないと思いますが、やはりそういった方向性を、この中である程度議論していくという観点での整理というのが、やっぱりPIステップ1、2とは違うのかなということで、そういう検討をよろしくお願ひしたいと思っています。

鈴木副局長：

このことについていかがですか。

武居副知事：

私も思っていたんですけども、PIステップ1とか2というのと、これから入ってくるのが、今度は問題なり課題というのか、テーマを深化させていく部分なんで、やっぱり今までよりもきめ細かい対応というんですかね、そこのところが必要なのかなという感じを持っています。それで、さっき質問をしたんですけど、例えばやり取りしながら、本当にテーマを深めて、同じような専門家でディスカッションしながらやっていると、共通

認識を持ちながら、課題とか問題点とか、それをみんな同じような場で同じレベルで認識しながら次のステップに進んでいくということになるんですが、P Iみたいな感じで極端なことを言うと、P Iステップ1とか2と全然関係ない人が突然P Iステップ3になって出てきて意見を言いましたと。それで、統計上はこうなっていますという人もおれば、本当にP Iステップ1も2も丁寧にしながら真剣に意見を言う、あるいは経済界とか専門家グループの人たちがずっと毎回やっているのもそういうことになってくるのかもしれませんが、そういった材料を最後どういうふうにもとめていくのかというのは、結構大事なポイントではないかなという感じがしておりますので、福岡空港調査P I有識者委員会の助言というのもございますし、今、本省の課長さんからお話がありました、沖縄でどういうやり方を今検討されているのかはわからないんですけども、今度は3方策の検討に入りますので、そこは丁寧に、ぜひやっていただきたいと希望しております。

中元副市長：

今、森川課長が言われたのが一つの大きなポイントになるんだらうと思いますので、しっかりと調査と意見の収集をお願いしたいというのが私の思いでございます。

鈴木副局長：

具体的に聞きたいんですけど、ステップ2は、要するに需要ですよね。だから、現空港が非常に利便性が悪くなりつつあって限界を超えるというような予想を立てているけれども、どうですかということなので、現空港を中心に、利用者も含めてP I活動をしていると。今度P Iステップ3に行くとする、この三つが出てくるわけですけども。そうすると、当然具体的に言えば、ステップ2までは現空港を中心に聞いていたのが、例えば、連携という隣の空港のエリアのほうもP Iの活動を広める。あるいは、要するに、今度新空港の話とか現空港もより増設をする案とかいうことになると、まちづくりみたいな、地域経営みたいな観点からもいろいろ意見が出てくるわけですので、そういうP Iも含めなきゃいけない。そういうふうに、調査の内容によって、より今までとは違う形でP Iの方向を調査に照らして進めるべきなんだけど、そこは具体的に、今アイデアがどこまであるかということをお聞きしたんですが、多分、今までのお話もインボルブメントということでは、今まではいいけど、これをそのままということだと少し足りないんじゃないかなというふうな気持ちもあって、いろいろな人のご意見が出ていると思うんですが。

幹事：

基本的には、今、おっしゃったとおりだと思ひまして、当然、連携とか3方策をやるということになっていきますので、当初、P Iステップ1から、北九州等でP I活動はしっかりやっています。P Iステップ2でも佐賀県を含めてやっています。そういう意味では、従来からの流れとしてもそう間違っていないのかなと思ひていますが、さらに具体的な3方策ということでP Iステップ3になりますので、エリア的に言いますと、そういう地域についてのP I活動も、これまで以上に少ししっかりやっていかなければいけないと思ひております。具体的にはこれから検討させていただきますけれども。

鈴木副局長：

例えば、今実施報告書の2ページ、3ページで、さっき副市長さんがおっしゃったように、活動の地域とか範囲が福岡中心になっていますよね。だから、オープンハウスは確かにいろいろ広範囲でやっていらっしゃるけど、そういうことが、P Iの実行計画みたいなものをやっぴり少しちゃんと議論をしてやってほしいなということです。

幹事：

わかりました。予算もありますので、できるだけご意見に沿うように工夫をしていきたいと思えます。

武田局長：

大阪航空局でも、実は那覇のP Iもやっているんですね。那覇と福岡の違いを、那覇の場合は、今の那覇空港から全然違うところに新空港を建設するというオプションもありませんし、近隣空港との連携というのも、那覇の近郊は米軍の空港しかありませんので、そういう意味では、現空港の拡張しかなく、那覇のややこしいところは防衛庁の陸海空がいるという、そういうところはネックになっているぐらいの話で、このようにいろいろなオプションがあるということとは根本的に違うんですね。したがって、やはり福岡の問題は新空港もあり、現空港もあり、近隣空港ということで、非常に評価の仕方も難しいと思っておりますし、なかなか大変な作業じゃないかなと思っております。

中元副市長：

とりまとめは19年度いっぱいできますか。

幹事：

基本として思っているのは、これです、いいです、終わりましたというのじゃなくて、一個一個積み上げながらご意見を聞いていく。要するに、出してご意見を聞き、また出してご意見を聞くということです。それが短期間の間にさっさとできればいいんですけど、いついつまでにというよりも、まず、この積み上げてやっていきたいと思っておりますので、それは何でも作業は早いほうがいいんですが、努力はいたしますが、やはり皆さんとのキャッチボールですね。

武田局長：

那覇の話に戻りますけれども、那覇は、実はステップ3で終わりなんですね。やはりここが難しいのは、オプションが多いものですから、やっぱりステップ4までであるということで、やっぱり那覇と福岡の違いが当然出てきますね。

鈴木副局長：

もともとパブリック・インボルブメント、インボルブするのが目的なので、やっぱりいろいろ活動して、それで、さっきキャッチボールと言いましたけど、いろいろなご意見の出る様子を見ながら、要するに年度とは関係なく、地域との情勢を見ながらということだ

と思いますが。非常に早くなれば早くなるし、少し時間をかけなければいけないということなら時間をかける、こういうことですよね。

幹事：

おっしゃるとおりです。

鈴木副局長：

あとは、ぜひ自治体の取り組みとして、やっぱり航空だけじゃなくて地域経営とか、そういういろいろな他方面、環境問題もありますし、いろいろなことを踏まえて活動支援をお願いしたいと思いますけれども。

武居副知事：

何となくパブリック・インボルブメントというと、住民とか市民を巻き込んでいろいろなそういったテーマに参画させながら、運動なり政策を推進していくというイメージがあるんですけども、今度のP Iステップ3とかステップ4というのは、非常に巻き込む層の属性によって、大分性格づけとか考え方というのが違ってくるような気もするんですけど、ですから、このステップ2ではこういうまとめ方でよかったのかもしれないんですけど、個人情報に配慮するのもそうなんですけど、やっぱりどういった方がどういったご意見を寄せているのかという分析というのが結構、これからは大事になってくるのかなという感じがしますので、そここのところをやっぱり丁寧に分析をして、もし、そこで足りない分野があったらそこをもうちょっとインボルブするとか、そういったところをきっちりやってもらう必要があると思うので、それはもう早目にそういったものを研究しながら、福岡空港調査P I有識者委員会のご意見を聞きながら、ぜひやってもらいたいという気持ち、さっきのと若干ダブる部分もありますけれども、お願いしたいと思います。

鈴木副局長：

もともとP Iは最終的に行政判断、政策判断をするときの一連の活動なんですけど、たった今のことでご意見をいただく方と、10年先のことを考えて、あるいはいろいろな経済の面とか環境の面等、おのこの視点でご意見を言っていただく方、そのいろいろなものをやっぱりいただかないと、最終的に判断できないので。副知事さんがおっしゃるように、ふわっと聞くということもありますけど、少し階層といいますか、視点で少し多層的にやるというのも過去のP Iでいろいろなインフラでやっていますので、いろいろ状況を検討しながら、よりよいP Iを進めていただければなと思います。事後的に分析だけじゃなくて、やっぱりP Iそのものもいろいろ判断というか、分析しやすいように方法も少し変えていくといいのかなと思います。

幹事：

今、おっしゃっていたことは、最初のスタートからいろいろ考えてはいて、懇談会というのは、いろいろなカテゴリーの人たちを少人数集めて説明をして直接意見を聞くということをやっています。今回は、福岡空港調査P I有識者委員会から1回目のときにご意見

が出たんですが、女性とか、若い人たち、学生とか、そういう人たちのご意見も聞いてみたらということで、懇談会形式でいろいろ聞いたりとか、大学にパネル展示してやったりとかいろいろ工夫をしています。あまり学生のほうは反応がなかったんですけども、そういったことは、具体的には細かいカテゴリーに分けて、そういった人たちにも意見、あるいは情報提供もできるような形で、今後いろいろな検討というか、分析をしながらやっていきたいとは思っています。

鈴木副局長：

いずれにしても、大もとになるPIをするにしても、大もとになる調査をしっかり19年度にやるということが大事だと思いますので、今いただいたご意見を踏まえてやっていただければと思います。ほかになれば、このような内容で進めていきたいと思えます。よろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

鈴木副局長：

それでは、議事のその他でございますけれども、何かございますか。

武居副知事：

来年度、こういった形で総合的な調査をやっていくことになるわけですが、国のほうで次期の社会資本整備重点計画とかが3月にはまた進んでいくと思うんですが、それとこういった総合的な調査の動きとの関連性とか、整合性とかいうのをきちんととっておく必要があるんじゃないかと思うんですけども、そこら辺について何かお考えがありましたらお聞かせいただきたいなと思っております。

森川課長：

ご承知のように、今交通政策審議会の航空分科会で、今後の航空政策のあり方全般について議論をしているところであります。それを踏まえて、答申という形になって、それをまた踏まえて、社会資本の重点整備計画、閣議決定されますけれども、それにつながっていくと。その中で、福岡、先ほどから話にある那覇、前回総合的な調査を進めるという整理になってございまして、今こういう形でいろいろな調査をやっておられるということですが。調査をやっておられる中で、どうやって記述をするか、私ども非常に悩ましい問題だなと思っております。

調査の具体的な中身について範疇を超えて記述をするというのはなかなか難しかならなと思っておりますけれども、航空分科会の議論の中でも、やはりアジア圏域、中国をはじめとしたアジア圏域の発展が著しい中で、首都圏、大都市圏をはじめ、地方圏はどう対応していくかという中で、福岡圏の位置づけなりが明確になれば、将来の目指すべき姿等についても明らかにされるのかなと思っております。本年中はいろいろな関係事業者なりエアラインなり、あるいは空港会社なりからヒアリングをして、今の状況をいろいろお聞きをしたわけですが、いよいよ来年から、事務局のほうから、私どもの考えを示し

て、委員の皆様方にご議論していったり取りまとめていただくというプロセスに入ります。

最初が需要予測と首都圏の空港のあり方、2回目が中部圏、近畿圏のあり方と一般空港のあり方ということで、その中に当然、那覇も福岡も入るということで、今言った観点からいろいろな資料をおつくりしているいろいろなご意見を伺って取りまとめていくんだなと思っております、その辺の議論も踏まえて、どういう取り扱いをしていくのかということが決まってくるかと思っております。基本的に、全体の中で、今、アジア・ゲートウェイとか、そういったアジアとの交流の深化で、こういった地域の本当の拠点空港がどういう役割を果たしていくのかというような議論がなされて、それに対するあり方なりが記述をされるといいますか、議論されるのではないかと、こう考えております。

鈴木副局長：

よろしいですか。

それでは、ここで議事を終了したいと思います。進行を事務局に戻します。

事務局：

では、以上をもちまして、本日の福岡空港調査連絡調整会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。